

	中期経営目標【3年間】	短期経営目標【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目＜評価方法＞	評価	中間評価
確かな学力	基礎・基本の定着及び課題発見・解決学習の充実 ＜一中におけるコンピテンシー育成＞	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を授業で実践・検証する。 全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」を視野に入れた単元開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が各教科の授業で「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を実践・検証する。また、校内研修で「すべ」と「手立て」の内容をブラッシュアップする。 全ての教員が11月22日（水）の公開研に向けて単元開発を行う。単元開発は6つのグループ内で連携・協議し、1つに絞り本校のHPにアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート（「各教科の授業において『すべ』と『手立て』を実践・検証できた」と肯定的な回答をする教員の割合が100%＜年度末等 教員アンケート＞）及び成果物（単元開発した資料） 	4	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を授業で実践・検証することができた。しかし、取り組みの報告には「『一中におけるコンピテンシー』の重要性はよく分かりますが、『すべ』と『手立て』についてはいまだに理解が不十分です。」等の記述が多く見られ、「すべ」と「手立て」の概念が全教員に浸透しているとは言い難い状況である。各教科グループや校内での研修において、育成すべき資質・能力における「教科の本質」と「一中におけるコンピテンシー」の関係性の理解を深めることで、「すべ」と「手立て」について考えていく事が必要である。 単元開発をもとにした指導案を全教員が作成することができたが、今後グループでの協議を通して、指導案の表記であったり、内容を深めたりしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着のより一層の充実を図り、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。 書いたことを伝え合う場面（ペアやグループでの学習活動等）を充実させる。 各学年の家庭学習目標時間（学年×0.5+1時間）に応じて、宿題の出し方（量、期限等）を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」定着状況調査（6月）の平均通過率60%以上の生徒80%以上、30%未満の生徒を0 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「ペアやグループでの学習活動等で、分かりやすく伝えている」生徒85%以上＜生徒アンケート＞（H27:83%） 	3	<ul style="list-style-type: none"> 6月に実施した「基礎・基本」定着状況調査の結果は、平均通過率が60%以上の生徒を80%以上にするという目標を達成できた教科は英語（83.3%）のみで、国語75.8%、数学73.3%、理科29.2%であった。30%未満の生徒を0にするという目標はどの教科も達成できなかった。（数学、英語は1.7%（2人））また、タイプⅡの問題の通過率は、国語64.6%、数学60.8%、理科45.7%、英語62.1%と低い。基礎・基本の問題だけではなく、思考させる問題も授業の中で扱っていく必要がある。 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」という項目については、目標85%以上を達成したが、自分の考え等を、「ペアやグループでの学習活動等で、分かりやすく伝えている」という項目については、76%という結果だった。今後は、日々の授業の中に意識して伝え合う場面を設定する。また、学習指導案を書く際に協働学習等を意識して行うようにさせる。
豊かな心	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の諸課題の把握と対応を、迅速かつ組織的に進める。 生徒指導と生徒会活動との連鎖的な取組・指導を工夫し、規律正しく生活できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席が連続する生徒を日常的に把握し、組織的な対応を迅速かつ段階的に行う。（生徒指導担当者会、学年会、企画委員会などでの交流・検討） 「時間・あいさつ・そうじ」のレベルアップを図る取組・指導・評価を行う。（生徒会活動と連動させながら、期間を決めて行う） 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」と肯定的な回答をする生徒90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒70%＜生徒アンケート＞ 「誰にでも、自分からあいさつをしている」と肯定的な回答をする生徒90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒60%＜生徒アンケート＞ 「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」と肯定的な回答をする生徒90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒50%＜生徒アンケート＞ 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は95%、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は65%であった。 「誰にでも、自分からあいさつをしている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は93%、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は58%であった。 「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は90%、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は39%であった。 <p>全体的に肯定的回答をした生徒の割合は目標値を超えることができた。しかし、「4-よく当てはまる」と回答した生徒の割合は目標値を超えることができていない。2学期以降も生徒会活動と連携して取組みを進めていくと同時に、生徒への評価もしっかりとしていきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、生徒主体の自治的活動をより充実させ、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら学級集団づくりを進める。（分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する） 月別生徒会目標を具現化する。（活動や点検・評価活動等を毎月の各種委員会で協議し、計画的に行う） 生徒会主体の全校朝会を定例化する。（月1回程度し、目標や課題の共有化を図る） リーダー指導・育成を進める。（学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する） 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒90%以上 「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒70%以上 「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」と肯定的な回答をする生徒90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒70%＜生徒アンケート＞ 	4	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は87%であった。 「毎月の生徒会目標を意識して生活している」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は71%であった。 「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は96%、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は65%であった。 <p>今後は、1回目のQUのアンケート分析結果を研修や学年会で交流し、活用していく。</p> <p>また、2学期の係活動や委員会活動を仕組みことや、文化祭をはじめとする諸行事の仕事を分担することを通して、人と人が関わる場を意図的に設定していきたい。</p>
健やかな体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動（特に全身持久力）を計画的に取り入れる。 「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組（部活動指導強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等）を毎学期1回企画・実施・評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト①5～6月、②11月～2月の「全身持久力」の項目において、各学年男女で全国平均・県平均の90%以上 「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」と肯定的な回答をする生徒70%以上＜生徒アンケート＞ 	4	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業において、計画的に5分間走を取り入れたことで、新体力テストの数値が前年度よりも改善した。全クラスが全国平均・県平均を超えていた。今後も全身持久力向上の取り組みを継続していく。 生徒アンケートにおいて、「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」の項目に肯定的回答をした生徒は、83%であった。比較的生活リズムを意識して生活する生徒は多いといえるが、より規則正しい生活リズムを継続・改善していくために、2学期には、生活リズム向上キャンペーンを行っていく。